

久川謹製 HISAKAWA



継承から始まる新たな創造

私たちのものづくりは、真に価値あるものを追求する成熟した眼差しに応え、今こそ求められる「個性の再定義」を追求すべく始動しました。

私たちは、単なる製品の提供に留まらず、優れた機能性と長年積み重ねた経験と誇りをまとうアイウェアを通じて、所有者の感性と誇りをより豊かに満たします。

HISAKAWAブランドが提案する、時代に左右されない普遍的な価値が、手に取ってくださった方の美意識とともに、時を超えて受け継がれていくことを願っています。

知性をまとう

私たちのデザイン理念は、

「Intelligence(知性)」「Authenticity(本物志向)」「Minimalism(最小限の美)」
日本の伝統的な美意識である「用の美(機能に宿る美)」を昇華させることを目指しました。

眼鏡としての本質的な機能を追求する中で、結果として現れる必然的な造形。
そこに家紋や日本刀といった文化的要素を織り込むことで、単なる視力矯正器具ではなく、
所有者の品格と知性を静かに物語る「現代の工芸品」としてのアイウェアを提案します。

HSP-3005-C5



デザインの着想源

本デザインの着想源は、日本の伝統文化として今なお日常に息づく「家紋」と、数世紀にわたり技を継承してきた刀鍛冶が鍛え上げる「日本刀」の機能美にあります。「時を奏でる」と言われ、凜として咲く風鈴草(ベルフラワー)を模した家紋のトレードマーク、そして日本刀の「反り」が描く極限まで研ぎ澄まされた優雅な曲線。これらの意匠を現代の光の中で再構築しました。脈々と受け継がれてきた職人の精神性と「用の美」を投影し、次世代へと繋ぐ「新たな古典」の創造をデザインの原点としています。



HISAKAWA Campanula Kamon
久川の家紋「風鈴草紋」



HISAKAWA Campanula Kamon Ishō
久川の家紋「風鈴草紋」意匠(かもんいしょう)



デザインの特長と革新性

HSP-3005-C5のデザインにおける革新性は、長年の経験に基づく以下の四点に集約されます。

1. 伝統の現代的解釈： 伝統的な「風鈴草紋」をモチーフの核に据え、現代の感性に響くデザインへと昇華させることで、独自のブランドアイデンティティを確立しました。
2. 素材と技術の融合： 柔軟なベータチタン材に、高精度な鍛造プレスによる「風鈴草」のリリーフ（浮き彫り）を施しました。テンプルへの装飾は、微細で奥行きのある表現を実現しています。
3. 内面美の追求（ノーズパッド）： ノーズパッドの内側に、ベルフラワーをモチーフとした水面鏡のような装飾を施しました。外装の意匠と密かに呼応し、日本の「粋」に通じる「見えない贅」を体現しています。
4. 独創的構造： 独自開発の「鷹嘴（たかのはし）型ヒンジ」を採用。実用的な機能から生まれた造形美が、20年以上の開発実績に裏打ちされた圧倒的なオリジナリティを形成しています。





構造上の革新性

本シリーズの革新性は、独自開発された**「鷹嘴型(たかはしがた)ヒンジ」に集約されています。この構造は、日本刀の「反り」から着想を得て設計されており、眼鏡の開閉という機能性と、理想的なホールド感を高い次元で調整します。機能そのものが優雅な曲線を描くこの眼鏡のシンボル**となり、一目でそれと分かる独自の個性を確立しました。使い心地の良さと美しさが一つの形として完結しており、細部まで徹底したこだわりが息づく、精度の高い制作を実現しています。



配色原則

本製品は、炭黒(すみぐろ)と黄金(こがね)のコントラストを配色の根幹に据えています。静謐な知性を湛えるマットな炭黒は、光を吸収し、その奥行きによって「内省的な美」を表現。そこに、古代の画法において龍を描き上げる最後に瞳を書き入れる「画龍点睛」のごとく添えられた黄金のリリーフは、荘厳な品位を放ち、所有者の品格を静かに際立たせます。この二色の共鳴は、華美さを排したミニマリズムの中に、圧倒的な高級感と「本物(オーセンティシティ)」としての存在感を宿しています。



装用感と細部のこだわり

眼鏡としての実用的な美しさを保ちながら、日々の使い心地を追求しています。軽量の素材選びと重量バランスの最適化により、長時間の使用でも負担の少ない掛け心地を実現しました。また、テンプルへの装飾や、ノーズパッド内側に施された水面鏡のような細工、ヒンジの柔らかな曲線といった細部は、視覚と触覚の両面で質の高さを伝えます。こうした細部へのこだわりが、手に取り、身に着けるたびに確かな満足感を提供します。

